

心房中隔欠損(ASD)・心室中隔欠損(VSD)とは

心臓の左右を隔てる壁の一部に穴が開いている状態で、先天性(生まれつき)の疾患です。穴が小さい場合、極まれに自然に閉鎖することがありますが、多くは穴が開いたままになります。

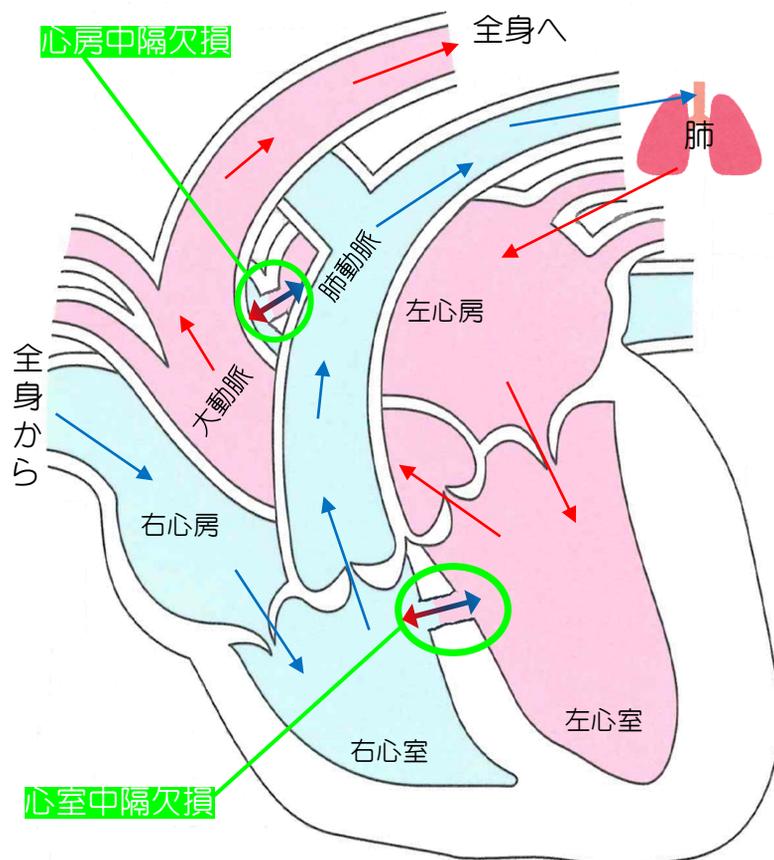
《症状》

穴が小さい場合特に無症状で経過しますが、穴が大きい場合は左心から右心への血液の流入量が多く、続く肺への負担も大きくなります。

肺動脈の圧が上がることで「肺高血圧症」となったり、右心不全兆候が見られることがあります。

また、血圧の差が逆転して右心から左心に流入するようになると静脈血が全身を巡り、重度の酸欠状態となってしまいます。

- 疲れやすい
- 運動後や興奮時に呼吸が悪くなる。
- 腹水貯留
- 胸水貯留
- 失神 等



《治療》

◆ 外科手術

穴が大きく、早期発見が出来た時は外科手術が選択される場合がありますが、専門的な知識・技術・機材が必要になり、設備の整った病院を紹介することになります。

◆ 内科治療

手術が出来ない場合やすでに心不全兆候が見られる場合には、強心剤や利尿剤、血管拡張剤などで症状を緩和する治療を行います。

残念ながら欠損箇所を内科的に埋めることは出来ません。

◆ 経過観察

穴が小さい場合や無症状の場合、定期的な心臓検査(レントゲンやエコー検査)を行いながら経過観察とすることがあります。

《フィラリア症の併発に注意》

フィラリアは細長い寄生虫で、主に肺動脈に寄生します。

心房中隔欠損があると肺動脈から移動して心房の欠損部から左心系に入り、大動脈など重要な血管に詰まって一気に状態が悪くなってしまう恐れがあります。

予防できる疾患なので、忘れずに予防しましょう！